

超臨界流体部会 *NEWS LETTER*

No. 4 (2005)

超臨界流体高度利用特別研究会を母胎とし、三番目の部会として平成13年3月に発足した超臨界流体部会も4年が経過しようとしています。これまで、幸田清一郎、荒井康彦両先生が部会長を務められ、精力的な部会活動を行うことができました。本年度は発足から現在までの第一段階のフェーズをまとめる中間活動報告書作成の年度にあたります。これからの部会の具体的な目標として、ロードマップとして次の5つのことをホームページ上に掲載いたしました。

1. 会員への情報サービス
2. 超臨界流体に関する専門家の育成
3. 「超臨界流体」分野の確立と社会認知
4. 超臨界流体技術の普及・社会還元
5. 新規研究テーマの提案

このロードマップには、本部会の(1)目的、(2)目標、(3)背景、(4)目標達成のためのアクションプラン、(5)化学工学会における位置づけ(役割)、(6)実現のための課題、(7)運営体制が書かれており、特に(4)のアクションプランにつきましてご一読願えれば幸いです。また、今後の活動並びに問題点を克服するため、既存の基礎物性、分離・抽出、反応・物質変換、材料製造、単位操作の5ワーキンググループが有機的にも連携し、活動して頂ければと存じます。超臨界流体を取り巻く社会状況も時々刻々と変化しています。分野を越えて、協力し、魅力ある部会を目指して会員の方々と共に歩んでまいりますのでよろしくご願ひ申し上げます。また、例年のことで恐縮ですが、部会益々の発展のため会員増強の継続的努力もご願ひ申し上げます次第です。

部会長 栃木勝己(日本大学・教授)

送 信 票

信先FAX 022-237-5215

E-mail: scf-div@m.aist.go.jp,

超臨界流体部会事務局 行

超臨界流体部会 第4回サマースクール
「超臨界技術に係わるシミュレーションの基礎と応用」
参加申込書

日 時：平成 17 年 8 月 4 日（木）14:00 ～ 8 月 5 日（金）12:00

担 当：（WG 単位） 鈴木 明 川崎 慎一郎

場 所：作並温泉 ゆづくしの宿一の坊 <http://www.ichinobo.com/sakunami/top.html>
〒981-3431 宮城県仙台市青葉区作並温泉
TEL：022-395-2131 FAX：022-395-2435

交 通：無料送迎バス有り（仙台駅西口のタクシープール
2 階の駅正面玄関の真下より 13:00 出発）
JR で仙台駅から作並駅まで 27 分（仙山線） * 作並駅より送迎バス運行
飛行機で仙台空港よりお車で約 90 分
バスで仙台駅より市営バス作並温泉行きで 60 分 * 作並温泉元湯下車

定 員：50 名

参加費：（宿泊・食費，セミナー資料付）

部会員：¥15,000

学生会員：¥9,000

非会員：¥18,000

非会員（学生）：¥10,000

日帰り参加希望の方は事務局にご相談下さい。

* 会費は当日集金致します。

参加者氏名

所 属

ご 住 所

電 話 番 号

E - mail

無料送迎バス利用 有り 無し

お申込の締切日は7月15日(金)です。

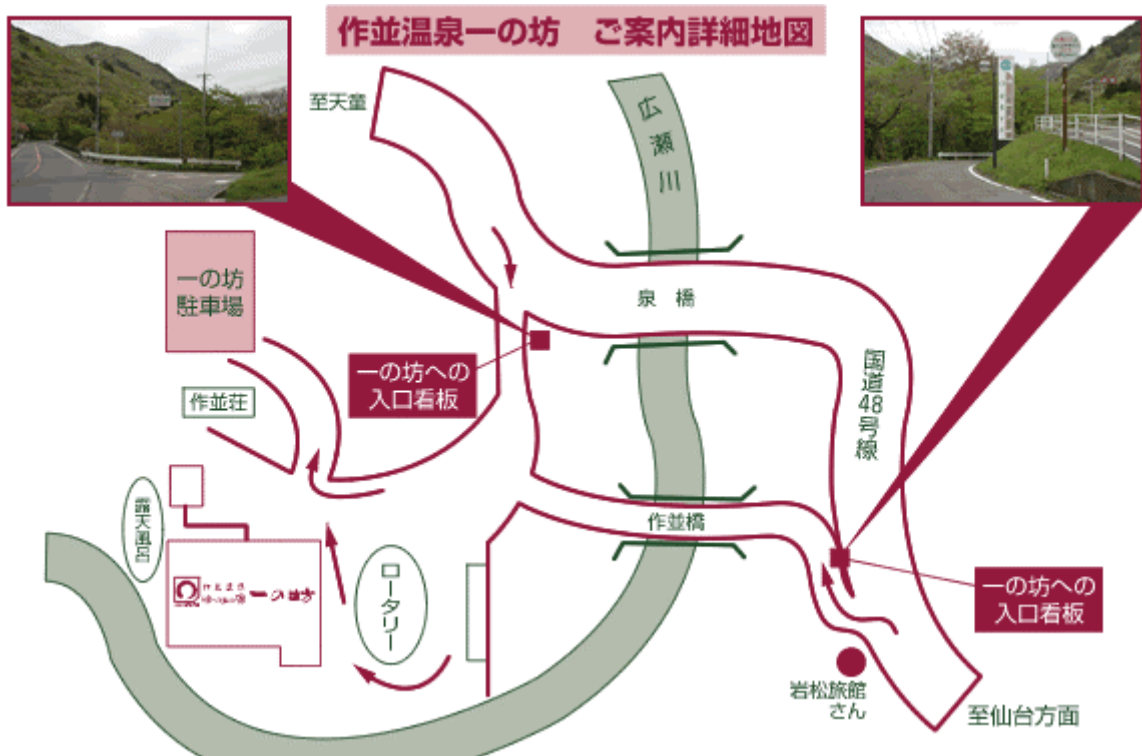
プログラム

第1日目 8/4(木)

- 14:00-14:10 開催あいさつ
14:10-15:00 シミュレーションの基礎 (産総研・増田氏)
15:00-15:50 SCWO 固体反応シミュレーション (東芝・平田氏)
休憩(10分間)
16:00-17:00 第1原理分子動力学による化学反応シミュレーション (産総研・池庄司氏)
17:00-17:40 超臨界データベース (産総研・倉田氏)
17:40-18:00 議論

第2日目 8/5(金)

- 9:00-9:50 高圧酸素供給系の危険性に関するシミュレーション (大陽日酸・中林氏)
9:50-10:40 ポリマーシミュレーション (東北大学・猪股氏)
休憩(10分間)
10:50-11:40 超臨界プロセスシミュレータ (アイテル・松浦氏、産総研・鹿内氏)
11:40-12:00 クロージング



化学工学会 第37回秋季大会

開催期間:2005年9月15日(木)～17日(土) (3日間)

開催場所:岡山大学津島キャンパス(〒700-8530 岡山市津島中一丁目1番1号)

講演要旨(PDF)提出締切:7月1日午後10時

講演要旨提出用WWW:<http://www.chemeng.hiroshima-u.ac.jp/scej37/kouen.htm>

S-30 超臨界流体の物性と高度利用 Supercritical Fluids Technology Revisited-

オーガナイザ: 超臨界流体部会 日秋俊彦・若山博昭・古屋 武
基礎物性部会 佐藤善之・辻 智也

第37回秋季大会では基礎物性部会と合同で、「超臨界流体の物性と高度利用」と題したシンポジウムを企画いたしました。超臨界流体部会員の皆様から多数の講演申し込みをいただき、74件の一般講演と3件の展望講演からなるシンポジウムとすることができました。シンポジウムのプログラムは、次のWWWよりご確認ください。

シンポジウムは3日間で、S会場・T会場の二会場を使用いたします。両会場は同じ建物の同じフロアにあり、会場間の移動は容易かと思えます。展望講演は、全てT会場で行います。

シンポジウムプログラム: <http://www.chemeng.hiroshima-u.ac.jp/scej37/prog/>

展望講演は大竹勝人氏(産総研), 片田直樹氏(花王(株)), 荒井正彦先生(北大)から、次のタイトルでご講演いただきます。

9月15日 学会1日目

講演者: 大竹勝人氏(産業技術総合研究所ナノテクノロジー研究部門)

講演タイトル: 超臨界流体を用いる材料開発と基礎物性

講演時間: 13:20～14:00(T114)

9月16日 学会2日目

講演者: 片田直樹氏(花王(株) 加工・プロセス開発研究所)

講演タイトル: 超臨界二酸化炭素を用いた微粒子プロセッシング(仮題)

講演時間: 13:20～14:00(T214)

9月17日 学会3日目

講演者: 荒井正彦先生(北海道大学大学院工学研究科物質工学専攻)

講演タイトル: 二酸化炭素加圧下の多相系触媒反応 相挙動と選択性制御

講演時間: 11:20～12:00(T308)

超臨界流体部会員の皆様にはこの後、座長のご依頼をさせていただきたいと思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

皆様にとって実り多いシンポジウムとなりますよう、オーガナイザー同様に準備を進めたいと思っております。

(文責: 古屋)

第9回超臨界流体部会集会のご案内

超臨界流体部会は上記の秋季大会初日 9/15 に 第 9 回超臨界流体部会集会を開催いたします。
場所、日程等は 後日皆様にご連絡いたします。

関連行事

来年京都で開催予定の ISSF2006(8th International Symposium on Supercritical Fluids)の 1st Circular を添付致します。
尚、事務局にお問い合わせいただければ、印刷版をお送りいたします。

8th International Symposium on Supercritical Fluids

開催日：2006 年 11 月 5-8 日

開催場所：国立京都国際会館

Organizing Chairs：後藤元信 阿尻雅文 Buxing Han Youn-Woo Lee

超臨界流体部会のHPからもご覧いただけます。

編集後記

部会長および事務局スタッフが一部変わって最初のニュースレターです。今回からの新たな企画として編集後記を掲載することになりました。編集後記は、本来、部会に関連した世相を映す鏡となることが理想です。しかし、実際には「これでやっと期限に間に合って皆さんに配布できる」という編集部の方の安堵感を記したものに過ぎないのかも知れません。今回も、とりあえずニュースレター編集が間に合ってほっと一息している新スタッフの様子を感じて頂ければ幸いです。